

黒木小スタイルⅠ「単元全体の授業の流れ」

		説明的教材の指導 □:全学年共通, ◇:中学年の力点, ◎高学年の力点
つかむ	第一次	<input type="checkbox"/> 教材への興味づけ <input type="checkbox"/> 説明内容の予想 <input type="checkbox"/> 初めて知ったこと, 疑問に思ったこと <input type="checkbox"/> 意味調べなどの書き込み(自主学習)
わかる・できる (読み取る)	第二次	<input type="checkbox"/> 教材を読み深める <input type="checkbox"/> 「問い」の文と「答え」の文を見つける ◇要点をまとめる ◇文章構成図をかく ◎要旨をまとめる ◎説明のわかりやすさ, わかりにくさについて話し合う。
表現できる	第三次	<input type="checkbox"/> クイズをつくる <input type="checkbox"/> 他の本や文章を読む <input type="checkbox"/> 筆者への手紙を書く ◎筆者の意見について, 自分の考えを書く

		文学的教材の指導 □:全学年共通, ◇:中学年の力点, ◎高学年の力点
つかむ	第一次	<input type="checkbox"/> 教材への興味づけ <input type="checkbox"/> 印象に残った言葉や文についての話し合い <input type="checkbox"/> 作品設定, 表現技法の書き込み(自主学習)
わかる・できる (読み取る)	第二次	<input type="checkbox"/> 教材を読み深める <input type="checkbox"/> 作品の設定をとらえる <input type="checkbox"/> 中心人物を見つける ◇中心人物の心情の変化をとらえる ◎主題文を書く, 主題をまとめる
表現できる	第三次	<input type="checkbox"/> 動作化 <input type="checkbox"/> ペープサート劇, 音読発表会 <input type="checkbox"/> 他の本や文章を読む <input type="checkbox"/> アフターストーリーを考える

黒木小スタイルⅡ「1単位時間の授業の流れ①」(説明文:最初からわたりあり)

学習活動 A学年(2・4・6年) ●留意事項	時間	過程	わたり	過程	時間	学習活動 B学年(1・3・5年) ●留意事項
①復習問題をする。 既習事項を応用・活用した問題を解く。 (①本時に学習する範囲を音読し、意味調べ、段落のキーワード調べなどを行う。)  ●本時に関係する学習内容を復習する。または、前時まで学習した内容を用いて解決できる問題を解かせる。	十分	復習・活用 表現できる		課題把握 つかむ	十分	①問題を理解する。 提示された問題について、読みとるべき内容、学習方法について把握する。  ②めあてをつかむ。 本時の学習のめあてをつかむ。  ●本時の問題解決が説明文を読み取るうえで、どのような力を高めることにつながるのかを押さえる。
②問題を理解する。 提示された問題について、読みとるべき内容、学習方法について把握する。  ③めあてをつかむ。 本時の学習のめあてをつかむ。  ●本時の問題解決が説明文を読み取るうえで、どのような力を高めることにつながるのかを押さえる。	十分	課題把握 つかむ		自力解決 わかる	十分	③ガイドの指示により、問題に対する自分の考えを書き表す。  ④ガイドの司会で、それぞれの児童の意見を伝え合う。 ④ガイドの司会で、グループで考えた意見をまとめる。  ●ノートやワークシートに書かれたことを発表するだけでなく、黒板に記録させたり、文カードを操作させるなどの工夫をする。
④ガイドの指示により、問題に対する自分の考えを書き表す。  ⑤ガイドの司会で、それぞれの児童の意見を伝え合う。 ⑤ガイドの司会で、グループで考えた意見をまとめる。  ●ノートやワークシートに書かれたことを発表するだけでなく、黒板に記録させたり、文カードを操作させるなどの工夫をする。	十分	自力解決 わかる		全体確認 できる	十分	⑤教師と児童の対話を中心として、読みとったことの確認をするとともに、「説明文の読み方」の中で何ができるようになったのかを確認する。  ●説明内容の理解だけではなく、説明方法や論理のよさを感じ得できるようにする。
⑥教師と児童の対話を中心として、読みとったことの確認をするとともに、「説明文の読み方」の中で何ができるようになったのかを確認する。  ●説明内容の理解だけではなく、説明方法や論理のよさを感じ得できるようにする。	十分	全体確認 できる		まとめ・練習 表現できる	十分	⑥本時で読み取ったことの振り返りを行い、既習事項を応用・活用した問題を解く。
⑦本時の学習で「わかったこと」「できるようになったこと」などを異学年の児童に伝える。	五分	ふりかえる (交流)		ふりかえる (交流)	五分	⑦本時の学習で「わかったこと」「できるようになったこと」などを異学年の児童に伝える。

今回の低学年の指導では、ワークシートについては東京書籍から配布されている「ワークシート集」をもとにして、本校児童の記述力を高める力や見通しを持って学び合う力を高めることをねらいとして、再構成したものを使って指導を行った。

指導案の形式については、中学年版の形式を参考されてください。

- 7 本時の学習活動 (1 / 6)
- (1) 本時の目標  
○全文を音読し、内容の大体をとらえることができる。
- (2) 本時で検証すること  
○教科書の絵や題名、学習の手引きを確認することや全文を音読することにより、単元全体の学習の見通しを持つことができるか。

- 7 本時の学習活動 (1 / 12)
- (1) 本時の目標  
○教材文を通読し、学習の見通しを立てることができる。
- (2) 本時で検証すること  
○ふろしきの実物を用意することや、ふろしきについての2つの文を黒板に提示し比較させることにより、2つの文章を比較して読むことへの興味が高まるか。

(3) 本時の展開

…間接

…直接

第1学年		第2学年	
指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価
○ガイドシートを準備しておく。	1 本時のめあてを確認する。	○ガイドシートを準備しておく。 ○CDの準備をしておく。 ○範読を聞かせる前に、読みにくい漢字については読み仮名を書くように伝える。 ○読み仮名を書いても時間に余裕のある児童については、漢字スキル等で新出漢字の予習・練習をさせる。	○ガイドシートを準備しておく。 ○CDの準備をしておく。 ○範読を聞かせる前に、読みにくい漢字については読み仮名を書くように伝える。 ○読み仮名を書いても時間に余裕のある児童については、漢字スキル等で新出漢字の予習・練習をさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて「どうやってみをまもるのかな」の学習計画を立てよう。</div> <p>◎「どうやってみをまもるのかな」のお話は、どこからどこまでかかれていますか。</p>	2 本文と手引きの部分を確認し、教師の範読を聞く。 ・62ページまで。 ・63ページはお話のことを聞いているからちがう。	2 めあてをつかむ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて「ふろしきはどんなぬの」の学習計画を立てよう。</div>
○読ませる前に、音読の方法を示す。 ①一人読み ②まとまりごとに交代して読む。 ③一文読み。 ④一斉読み。	3 様々な方法で音読し、内容の大体を捉える。	3 ふろしきについて知っていることや、教材文に書かれていることの予想を話し合わせる。	○題名、ふろしきの実物見せ、児童の興味・関心を高める。 ・おせちをつつんでいた。
○お話を読んで、思ったことを話しましょう。	4 ヤマアラシ、アルマジロ、スカンクについて、 ①知っていること ②見た経験 ③自分だったらどうやって身を守るか ④分かったこと ⑤分からなかったこと ⑥もっと知りたいことなど、自由に話し合	4 二つの説明文、学習の手引きを参照し、学習課題を確かめ、単元の見通しを持つ。 ・一つ目は短いけど、二つ目は長くてくわしい。	◎「ふろしきはどんなぬの」では、どんなことが説明されているのでしょうか。 ○二つの説明を拡大したものを黒板に提示し、説明のしかたがちがうことに気づかせる。 ○学習の見通し「せつめいのしかたをくらべて、それぞれのよさを見つけていく」を板書。(あるいはフラッシュカード)

<p>○次時から、それぞれの動物についてくわしく読んでいくことを伝える。</p>	<p>せる。 5 本時の学習をふりかえる。</p>		<p>5 全文を音読する。 6 書いた感想を伝え合う。</p>	<p>○読む前に、「読んだ後、どんなちがいが感じられたか」をノートに書くように伝える。</p>
--	-------------------------------	--	-------------------------------------	---

(4) 本時の評価

	学習活動における 具体的評価規準	努力が必要と判断する 児童への手立て	十分満足できると 判断する児童の姿 (手立て)
1年	全文を音読し、内容の大体をとらえることができる。(ワークシート・観察)	教科書の絵や題名、学習の手引きを確認し、読むことへの関心を持たせる。	教材文の題名や絵を示して自分なりの感想を述べることができる。
2年	教材文について関心をもち、単元全体の学習活動に見通しを持つとともに感想をもつことができる。(ワークシート・観察)	○ふるしきの実物を用意することや、ふるしきについての2つの文を黒板に提示し比較させることにより、2つの文章を読むことへの関心を持たせる。	文中の記述を引用したり、写真を示して自分なりの感想を述べるができる。

どう やって みを まもるのかな① 一ねん )

めあて

がくしゅうのながれをつかもう。

がくしゅうのゴール

よんで わかったことを えを つかって せつめいする

一もん

いろいろな やりかたで おんどくしましょう。

① いっせいよみ：みんなで よむこと

② ひとりよみ：ひとりで よむこと

③ いちぶんよみ：まる」で こうたいして よむこと

④ リレーよみ：まとまりで こうたいして よむこと

二もん

おはなしを よんで おもったことを はなしましょう。

① しっていること

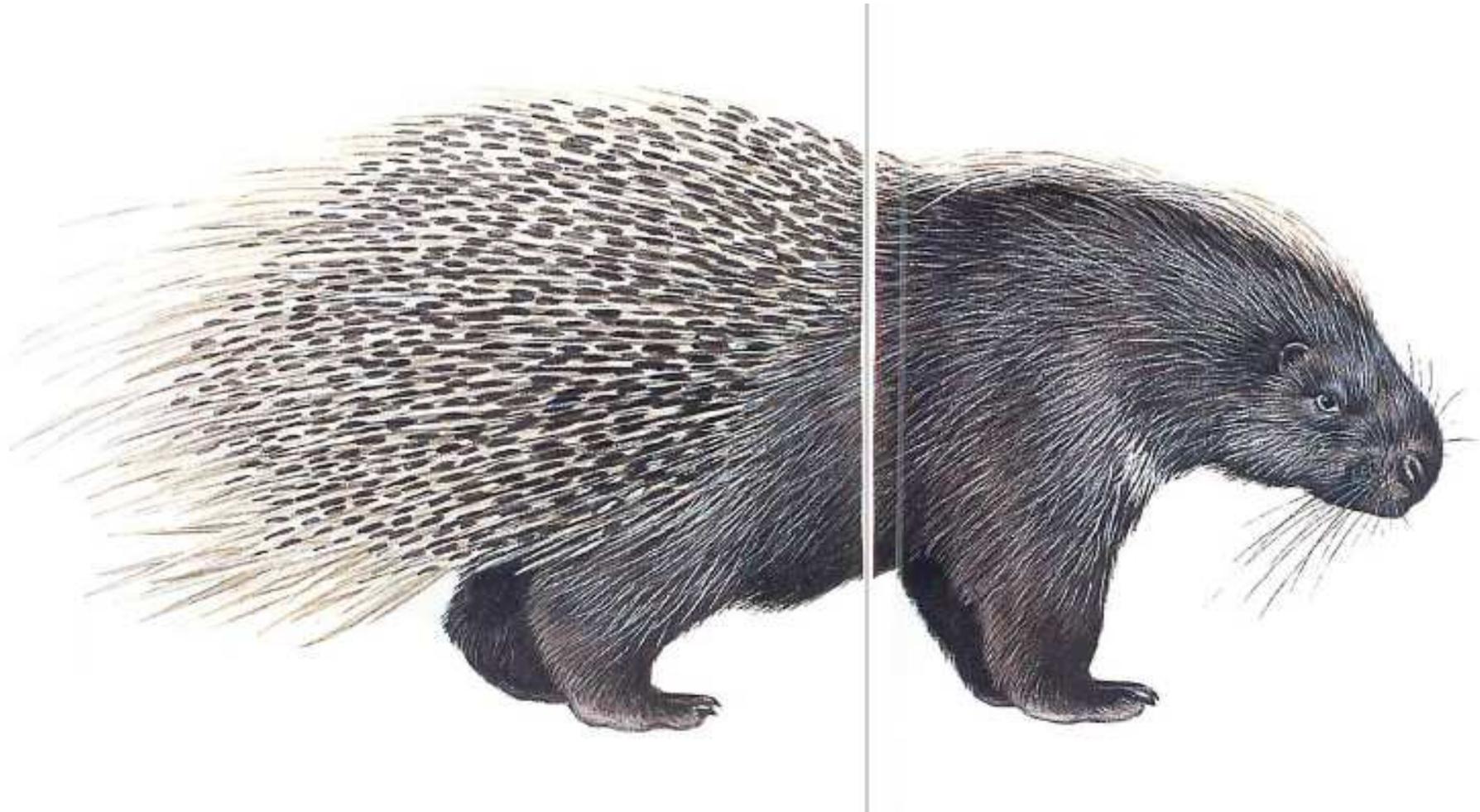
② みたことが あること

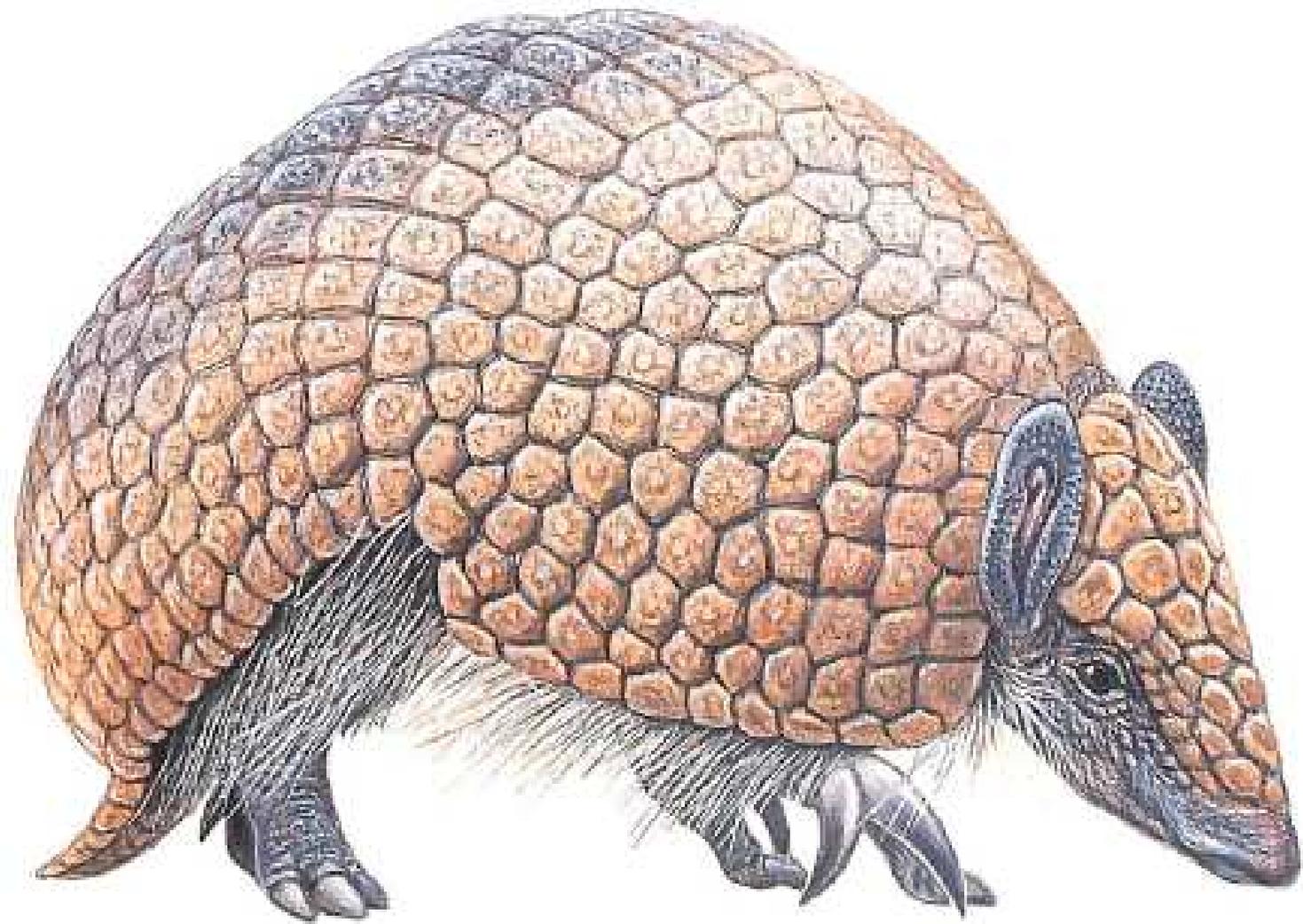
③ じぶんだったら どうやって まもるか

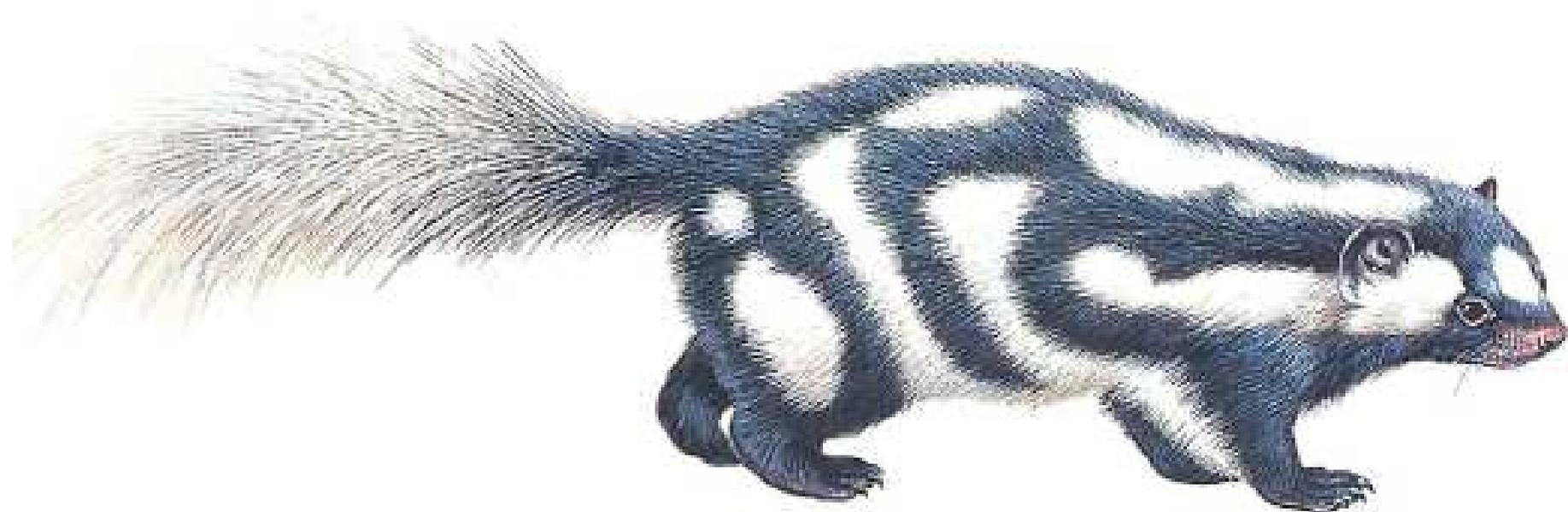
④ よんで わかったこと

⑤ よんで わからなかったこと

⑥ もっと しりたいこと







めあて

「ふるしきはどんなぬの」のがくしゅうのながれをつかもう。

第一問

「ふるしき」のほんものを見て、どんなときにつかうか、つたえあいましよう。

がくしゅうのゴール

せつめいのしかたのちがいをくらべて、それぞれの「よさ」を見つけて、つたえあう。

第二問

「ふるしきはどんなぬの」を読みましよう。

① いっせいよみ：みんなで よむこと

② ひとりよみ：ひとりで よむこと

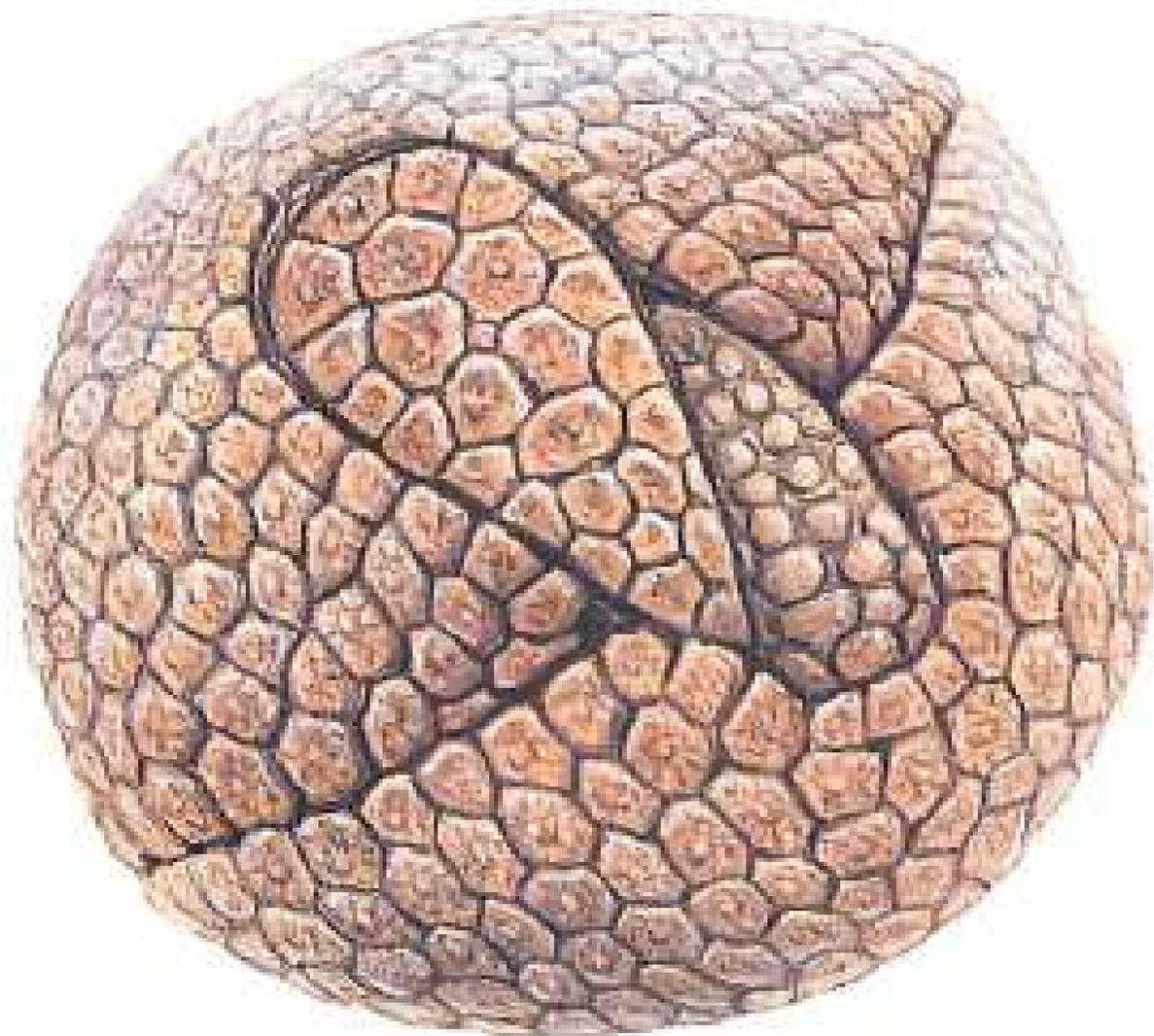
③ いちぶんよみ：まる」で こうたいして よむこと

④ リレーよみ：まとまりで こうたいして よむこと

第三問

二つのせつめいは、どんなちがいがありましたか？  
かんじたことを、かきましよう。





1. 1. 1.



7 本時の学習活動 (2 / 6)  
 (1) 本時の目標  
 ○文章のまとまりをとらえることができる。

(2) 本時で検証すること  
 ○全文を1枚に印刷した掲示物や3種類の動物の名前を黒板に掲示して段落の主語を意識させることにより、文章全体のまとまりを捉えることができるか。

(3) 本時の展開

7 本時の学習活動 (2 / 12)  
 (1) 本時の目標  
 ○読み比べる二つの文章をとらえ、語のまとまりを意識して教材文を音読することができる。

(2) 本時で検証すること  
 ○二つの文章の題名、文章の拡大コピー、使われている場面を構造的に黒板に示し、ペアによる音読の聞き合いをすることで、文章のちがいを意識して音読することができるか。

…間接

…直接

第1学年		第2学年	
指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	
○ガイドシートを準備しておく。	1 本時のめあてを確認する。	○ガイドシートを準備しておく。 ○それぞれの発表後に、聞き手が「よかった点」をコメントするように伝えておく。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">めあて どんな動物が出てくるか、読んでみよう。</div> ○読みの視点として、 ①何種類の動物が出てくるか。 ②どんな動物なのかに気を付けて読むように伝える。  <b>◎どんな動物がでてきましたか。</b> <b>◎その動物のことは、どこからどこまで書かれていますか。</b> <b>◎三つの動物のことでないことがかいてあるのは、どこですか。</b> ○それぞれ、2ページずつ説明されていることがわかるように板書する。(教科書の拡大コピーをつないだものを黒板に提示する。)	2 読むときの視点を意識して全文を音読する。  3 出てくる動物の種類と、それぞれの動物の説明の範囲を読み取る。  4 全体の話題提示の部分と、それぞれの説明の部分とを区別する。	1 前時に書いた、初発の感想(二つの文章のちがいについて)を発表する。  2 めあてをつかむ。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">めあて読み比べる二つの文章を確かめて、音読しよう。</div> 3 全文(P76～P79)を音読し、「読み比べる二つの説明」とは、何を指すのかを考える。  <b>◎本文を読ませる前に、本単元名「二つのせつめいをくらべよう」を示し、「二つのせつめい」とは何なのかを意識させる。</b>	○二つの文章が使われている場面について確かめる。 <b>◎かおりさんは、何について知りたいと思ったのですか。</b> <b>◎どちらが、ふるしき売り場にあったカードで、どちらが本にのっていた文でしょうでしょうか。</b>
	つかむ	表現できる	
	つかむ	つかむ	
	わかる	わかる	
	できる	できる	

<p>○動物ごとに、まとまって説明させていることを押さえる。</p>	<p>5 本時の学習をふりかえり、わかったことや考えたことを伝え合う。</p> <p>6 感想を伝え合い、今日の学習を振り返る。</p>	<p>← 表現できる</p> <p>→ 表現できる</p>	<p>5 次時から二つの文章を比べながら、詳しく読み取っていくことを確認し、二つの文章の内容を確認しながら音読する。</p>	<p>○同じ内容が書かれているところがないかを意識させて音読させる。</p>
------------------------------------	--	---------------------------------------	--	--

(4) 本時の評価

	学習活動における 具体の評価規準	努力が必要と判断する 児童への手立て	十分満足できると 判断する児童の姿（手立て）
1年	文章のまとまりをとらえることができる。（ワークシート・観察）	全文を1枚に印刷した掲示物や3種類の動物の名前を黒板に掲示して段落の主語を意識させる。	段落の主語「やまあらし」「あるまじろ」「すかんく」を手がかりに、自分の力で4つのまとまりに分けることができる。
2年	読み比べる二つの文章をとらえ、語のまとまりを意識して教材文を音読することができる。（ワークシート・観察）	二つの文章の題名、文章の拡大コピー、使われている場面を構造的に黒板に示し、ペアによる音読の聞き合いをする。	教師の助言・指摘なしに、文章中の語のまとまりを正しくとらえて音読することができる。

どう やって みを まもるのかな② ーねん )

めあて

どんな どうぶつが でてくるか、よんでみよう。

だいーもん

どんな どうぶつが できましたか。

こたえ

だい二もん

どうぶつは どんな じゅんばんで できましたか。

③	②	①
さいしょに、	つぎに、	さいしょに、
が できました。	が できました。	が できました。

だい三もん

三つの どうぶつではないことが かかれています  
ぶんを かきうつしましょう。

こたえ


四 二つのせつめいをくらべよう

ふるしきは どんなぬの②

二年 名前)

(

めあて

よみくらべる 二つの ぶんしょうを たしかめて おんどくしよう。

だい一もん

「ふるしきはどんなぬの」をよみましょう。

① いっせいよみ…みんなで よむこと

② ひとりよみ…ひとりで よむこと

③ いちぶんよみ…まる」で こうたいして よむこと

④ リレーよみ…まとまりで こうたいして よむこと

ことば

あたらしいかんじ「や 読みかえのかんじ」を習いましょう。

だい二もん

「二つのせつめい」とは、だれが見つけたものですか？

こたえ

が見つけた。

ひょうげんできる】

だい三もん

「二つのせつめいは」「どこに ありましたか？

※ びょうけん【書き出しの文につづけて、かきましょう。

こたえ

一つ目のせつめいは、

二つ目のせつめいは、

だい四もん

「二つのせつめいに、何が書かれているのかを考えながら、ふるしきはどんなぬの」をよみましょう。

7 本時の学習活動 (3 / 6)  
 (1) 本時の目標  
 ○ヤマアラシの身の守り方を正しく読み取ることができる。

(2) 本時で検証すること  
 ○説明されている体の特徴の表現について、挿絵とつないで読み取らせることにより、書かれている事柄の順序に気を付けて読み取ることができるか。

(3) 本時の展開

7 本時の学習活動 (3 / 12)  
 (1) 本時の目標  
 ○二つの文章を正しく視写し、ちがいに気づくことができる。

(2) 本時で検証すること  
 ○書き写すことのやくそくを示すことにより、丁寧に正しく視写し、二つの文章の違いに気づくことができるか。

…間接

…直接

第1学年		第2学年	
指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	
○ガイドシートを準備しておく。	1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。	○ガイドシートを準備しておく。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて ヤマアラシはどうやって身を守るのか、読んで確かめよう。</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて 二つの文章を正しく書き写して、ちがいを考えよう。</div>	
○読みの視点(めあて)として、「どうぶつは、どんなからだをしていますか。どのようにしてみをまもるのでしょうか。」を黒板に提示する。	2 教科書P63を読み、「読み取りのめあて」を持つ。	○視写させる前に、「書き写すときのやくそく」を黒板に提示する。 ①ひとまずに、一字書く。 ②まずは、あいだをあげないで、つめて書く。 ③点(,)やまる(.)もひとまずに書く。 ④書き写したら、声に出して読みます。	
○「これはヤマアラシです。」の「これ」は挿絵を指すことを押さえる。 ○ヤマアラシの体がどのようにになっているかが書かれているところにサイドラインを引かせ、「どこが「どのようにになっているか」を分けてまとめる。	3 教科書P57・P58を読み、ヤマアラシの体の特徴を読み取る。 ・せなかにながくてかたいとげがある。	○二つの文章を音読する。(一斉音読・リレー音読)	
OP63の文をふりかえらせ、「どのようにしてみるまもるのでしょうか。」という問いかけの文に着目させる。 ○身の守り方については、次のページに書かれていることを押さえる。	4 ヤマアラシの身の守り方を読み取る。 ・とげをたてて ・うしろむきになって	2 めあてをつかむ。	
		3 二つの文章を視写する。	

<p>◎となりのともだちに、ヤマアラシの身の守り方を説明しましょう。教科書の言葉を使って、ヤマアラシの絵を指さしながら伝えましょう。</p>	<p>5 2人ペア（隣同士）で、読み取ったことを説明し合う。</p> <p>6 ヤマアラシの身の守り方を思い浮かべながら音読する。</p>	<p>■ ← できる</p> <p>→ ■ 表現できる</p>	<p>4 視写した二つの文章を音読し、正しく視写できているかどうかを確かめる。</p>	<p>○視写した文章を、今後の学習では、二つの文章をくらべるために使うことを確認する。</p>
--	---	---------------------------------	---	---

(4) 本時の評価

	学習活動における 具体的評価規準	努力が必要と判断する 児童への手立て	十分満足できると 判断する児童の姿（手立て）
1年	ヤマアラシの身の守り方を正しく読み取ることができる。（ワークシート・観察）	説明されている体の特徴の表現について、挿絵とつないで読み取らせる。	説明する部分の絵を指さしながら、教科書の言葉を自分でつないで説明することができる。
2年	二つの文章を正しく視写し、ちがいに気づくことができる。（ワークシート・観察）	書き写すことのやくそくを示すことにより、丁寧に正しく視写させる。	二つの文章を視写しながら、二つの文章の違いに気づくことができる。

どう やって みを まもるのかな③ ーねん ー

めあて

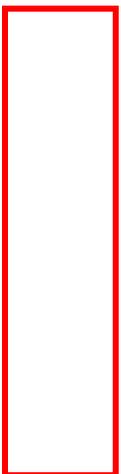
よんで たしかめよう。は、どうやって みを まもるのか

だいーもん

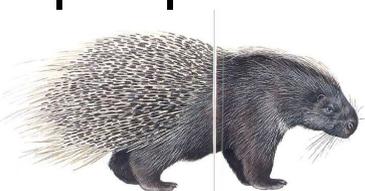
やまあらしは、どんな からだを していますか。

こたえ

やまあらしの



には



だい二もん

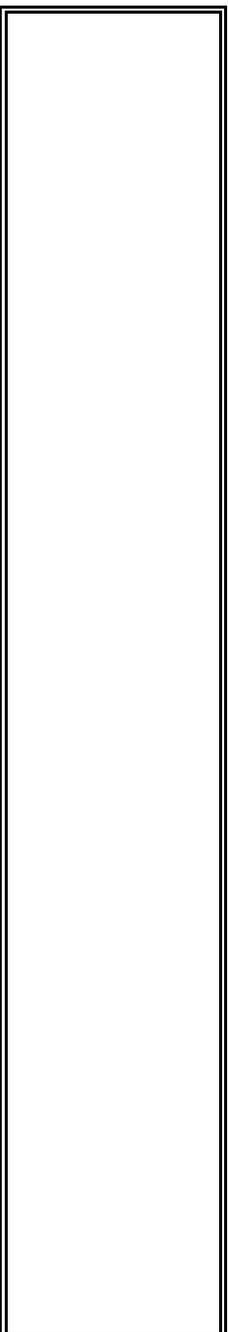
やまあらしは、どのよう に して みを まもるのでしょうか。

てきが きたら、



だい三もん

やまあらしの みの まもりかたを よんで、 おもった ことを かきましよう。







7 本時の学習活動 (4 / 6)

(1) 本時の目標  
○アルマジロの身の守り方を正しく読み取ることができる。

(2) 本時で検証すること  
○説明されている体の特徴の表現について、挿絵とつないで読み取らせることにより、書かれている事柄の順序に気を付けて読み取ることができるか。

(3) 本時の展開

…間接

7 本時の学習活動 (4 / 12)

(1) 本時の目標  
○二つの文章を正しく視写し、ちがいに気づくことができる。

(2) 本時で検証すること  
○書かれている内容が共通している部分を示すことにより、二つの文章の違いに気づくことができるか。

…直接

第1学年		第2学年	
指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	
○ガイドシートを準備しておく。	1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。	○ガイドシートを準備しておく。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて アルマジロはどうやって身を守るのか、読んで確かめよう。</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて 二つの文章を正しく書き写して、ちがいを考えよう。</div>	
○「これはアルマジロです。」の「これ」は挿絵を指すことを押さえる。 ○アルマジロの体がどのようにになっているかが書かれているところにサイドラインを引かせ、「どこ」が「どのようにになっているか」を分けてまとめる。	2 教科書P59・P60を読み、アルマジロの体の特徴を読み取り、ノート(ワークシート)にまとめる。	○くわしい違いについては、次時以降で読み取っていくことを伝え、ここでは気づいたちがいをノートにメモしておくことを伝える。	
OP63の文をふりかえらせ、「どのようにしてみるまものでしょう。」という問いかけの文に着目させる。 ○身の守り方については、ヤマアラシの文章と同じように次のページに書かれていることを押さえる。 ○ヤマアラシと同じ文章構成で説明されていることを押さえる。	3 アルマジロの身の守り方を読み取り、ノート(ワークシート)にまとめる。	○二つの文には、どのようなちがいがあるか、気づいたことをノートにメモしておきましょう。 ○気づいたちがいを全て書いて時間に余裕がある児童には、二つの文章の「似ているところ」「同じところ」についても考えるように促す。 ○ちがいをを見つけることに手間取っている児童には、説明されている内容が共通している部分を示し、集中して見比べられるようにする。	
○うまく読み取れない児童には挿絵とつないで「からだをまるめて」「こうだけをみせて」「じっとして」などの表現について理解させる。	4 2人ペア(隣同士)で、読み取ったことを説明し合う。		
◎となりのともだちに、アルマジロの身の守り方を説明しましょう。教科書の言葉を使って、アルマジロの絵を指さしながら伝えましょう。			

	5 アルマジロの身の守り方を思い浮かべながら音読する。	→ ■ 表現できる	5 ノートに書きだしたメモを用いて、二つの文章の違いについて伝え合う。	◎二つの文には、どのようなちがいがああるか、気づいたことを、隣同士で伝え合しましょう。
--	-----------------------------	--------------	-------------------------------------	---

(4) 本時の評価

	学習活動における 具体の評価規準	努力が必要と判断する 児童への手立て	十分満足できると 判断する児童の姿（手立て）
1年	アルマジロの身の守り方を正しく読み取ることができる。（ワークシート・観察）	説明されている体の特徴の表現について、挿絵とつないで読み取らせる。	説明する部分の絵を指さしながら、教科書の言葉を自分でつないで説明することができる。
2年	二つの文章を正しく視写し、ちがいに気づくことができる。（ワークシート・観察）	○書かれている内容が共通している部分を示すことにより、二つの文章の違いに気づかせる。	二つの文章のちがいについて、ノートに書きだしたメモをもとに自分の言葉を補って伝えることができる。

どうやって みを まもるのかな④ ーねん ー

めあて

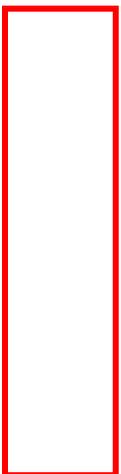
よんで たしかめよう。は、どうやって みを まもるのか

だいーもん

あるまじろは、どんな からだを していますか。

こたえ

あるまじろの



は



だい二もん

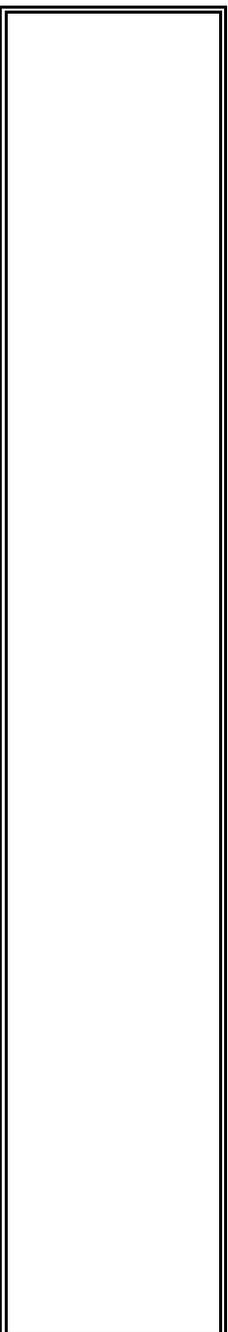
あるまじろは、どのように して みを まもるのでしょうか。

てきが きたら、



だい三もん

あるまじろの みの まもりかたを よんで、 おもった ことを かきましよう。



四 **二つのせつめい**をくらべよう

ふろしきは どんなぬの④

二年 名前)

(

めあて

よみくらべる 二つの ぶんしょうを 正しく かきうつして  
ちがいを 考えよう。

だいもん

ふろしき売り場に あった カードに 書かれて いた  
文しょうと、本に のって いた 文しょう の ちがいや  
づいたことを メモしましょう。

二つの 文しょうの 同じところや にているところは、

二つの 文しょうの ちがうところは、

【ひょうげんできる】

メモしたことをつかって、くらべて 気づいた ことを つたえあいましょう。

◎メモをつかって **はなすことができた** ・○メモを **よんだ**

7 本時の学習活動 (5 / 6)

(1) 本時の目標  
○スカンクの身の守り方を正しく読み取ることができる。

(2) 本時で検証すること  
○説明されている体の特徴の表現について、挿絵とつないで読み取らせることにより、書かれている事柄の順序に気を付けて読み取ることができるか。

(3) 本時の展開

7 本時の学習活動 (5 / 12)

(1) 本時の目標  
○二つの文章を読み比べ、同じことが書かれているところを見つけることができる。

(2) 本時で検証すること  
○カードの文章のコピーを配り、比較しやすくすることで、二つの文章の共通部分を判別することができるか。

…間接

…直接

第1学年		第2学年	
指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価
○ガイドシートを準備しておく。	1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。	○ガイドシートを準備しておく。 ○読ませる前に、二つの文章には、同じことが書かれていることを意識させる。	○ガイドシートを準備しておく。 ○読ませる前に、二つの文章には、同じことが書かれていることを意識させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>めあて スカンクはどうやって身を守るのか、読んで確かめよう。</b> </div> <p>○「これはすかんくです。」の「これ」は挿絵を指すことを押さえる。 ○すかんくの体がどのようになっているかが書かれているところにサイドラインを引かせ、「どこ」が「どのようになっているか」を分けてまとめる。</p> <p>○ヤマアラシやアルマジロの文章構成と異なり、二段階で説明されていることに気づかせる。 ◎スカンクの身の守り方の説明は、これまでの動物の説明とちがうところがあります。どこがちがいますか。</p> <p>◎となりのともだちに、スカンクの身の守り方を説明しましょう。教科書の言葉を使って、スカンクの絵を指さしながら伝えましょう。</p>	<p>2 教科書P61・P62を読み、スカンクの体の特徴を読み取り、ノート（ワークシート）にまとめる。 ・おしりから ・くさいしるを出す</p> <p>3 すかんくの身の守り方を読み取り、ノート（ワークシート）にまとめる。 ・てきがきたら→さかだち ・てきがにげないと→くさいしるを出す ・「てきがにげない」ときの説明がある。</p> <p>4 2人ペア（隣同士）で、読み取ったことを説明し合う。</p>	<p>1 前時に視写した二つの文章を音読する。 (一斉音読・分担音読・リレー音読などで)</p> <p>2 めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>めあて 二つの文章の同じところを見つけよう。</b> </div> <p>3 二つの文章を比べながら読み、同じところに線を引く。 ・「いろいろな形や大きさのものをつつんではこべます。」=ふるしきは、いろいろな形や大きさのものをつつんではこぶことができます。</p> <p>4 線を引いた部分を音読し、どんなことが書かれているかを一言で言う表現を考え、発表する。 ・「いろいろな形や大きさのものをつつんではこべます。」=ふるしきは、いろいろな形や大きさのものをつつんではこぶことができます。</p>	<p>◎同じことが書かれていることに気づきましたか。</p> <p>○黒板に、二つの文章の一部を並べて掲示し、同じことが書かれているところへの線の引き方を説明する。 ※二つの文章を拡大したものを黒板に掲示し、実際に線を引いて、学習方法を把握させる。</p> <p>○項目ごとに色や線種を変えるなどの工夫をしてもよい。</p> <p>◎線を引いた部分を、ズバリ一言でかたんに言うのとすると、どのように言い表すことができますか。</p>

	<p>5 スカンクの身の守り方を思い浮かべながら音読する。</p>	<p>← できる</p> <p>→ ■ 表現できる</p>	<p>や大きさのものをつつんではこぶことができます。</p> <p>☞ <b>どんなものをつつんで運べるか。</b>が書かれている。など…</p> <p>5 本時の学習を振り返り、わかったことを伝え合う。</p>	<p>◎今日の学習で、二つの文章についてわかったことを伝え合いました。</p>
--	-----------------------------------	-------------------------------	--	---

(4) 本時の評価

	学習活動における 具体の評価規準	努力が必要と判断する 児童への手立て	十分満足できると 判断する児童の姿 (手立て)
1年	スカンクの身の守り方を正しく読み取ることができる。(ワークシート・観察)	説明されている体の特徴の表現について、挿絵とつないで読み取らせる。	説明する部分の絵を指さしながら、教科書の言葉を自分でつないで説明することができる。
2年	二つの文章を読み比べ、同じことが書かれているところを見つけることができる。(ワークシート・観察)	カードの文章のコピーを配り、比較しやすくする。	二つの文章の共通部分について、何のことが書かれているかを、教師の助言なしに自分の言葉で表現することができる。

どう やって みを まもるのかな⑤ ーねん ー

めあて

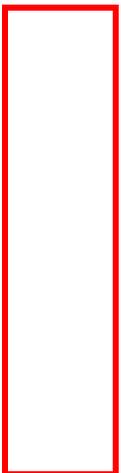
よんで たしかめよう。は、どうやって みを まもるのか

だいーもん

すかんくは、どんな からだを していますか。

こたえ

すかんくの



からは、



だい二もん

すかんくは、どのように して みを まもるのでしょうか。

てきが きたら、



てきが にげないと、

ひょうげんできる】

すかんくの みの まもりかたについて おもったことを つたえあいましょう。

四 二つのせつめいをくらべよう

ふるしきは どんなぬの⑤ 二年 名前 ( )

めあて

二つの ぶんしょうの おなじところを みつけよう。

だいもん ふろしき売り場に あった カードに 書かれて いた  
文しようと、本に のって いた 文しように おなじところに  
サイドラインを ひきましよう。

だいもん

サイドラインを ひいた 文しように かきうつしましょう。

カードに 書かれていた 文しように

おなじことが かかれています。

本に のっていた 文しように

ひょうげんできる【まとめ】

カードにも 本にも 書かれていたのは ふろしきの 何についてですか。

◎カードにも、本にも

じつじ

書かれている。

7 本時の学習活動 (6 / 6)

(1) 本時の目標

○文章を読んで分かったことやもっと知りたくなったことなど、感想を交流することができる。

(2) 本時で検証すること

○「気になる動物」「好きな動物」はどれかを問いかけ、その理由を語らせることにより、読み取ったことをもとに自分なりの感想を伝えることができるか。

(3) 本時の展開

…間接

7 本時の学習活動 (6 / 12)

(1) 本時の目標

○文の数のちがいを見つけ、ちがいの意味や効果を考えることができる。

(2) 本時で検証すること

○句点ごとに文の数を確認することにより、文の数に着目して二つの文章のちがいや効果を読み取ることができるか。

…直接

第1学年		第2学年	
指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価
○ガイドシートを準備しておく。	1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。	○ガイドシートを準備しておく。 ○読む前に、P80の手引きを確認し、違いを比べるための二つの観点を確かめる。 ①「文の数」をくらべる。 ②「一つの文の長さ」をくらべる。	○ガイドシートを準備しておく。 ○読む前に、P80の手引きを確認し、違いを比べるための二つの観点を確かめる。 ①「文の数」をくらべる。 ②「一つの文の長さ」をくらべる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>めあて「どうやってみをまもるのかな」を読んで、思ったことを話そう。</b> </div> ○読みの視点として、 ①一番気に入った動物 ②身を守れるのか心配だった動物 ③おもしろいやりかたと思った動物 という視点を示しておく。  <b>◎三つの動物の中でいちばん気になる動物を選びましょう。どうして、その動物を選んだのか話しましょう。</b>	2 読みの視点を確認し、いろいろなやり方で全文音読する。 ・二人一組で全文を読み合う。 ・問いかけの文と動物ごとの部分に分けて読むなど  3 気になる動物を一つ選び、感想を交流させる。 ・アルマジロは丸まったままで食べられないのかなと思った。 ・スカンクのくさい汁のにおいをかいでみたい。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>めあて 二つの文章のちがうところを見つけよう。文の数をくらべよう。</b> </div> 2 めあてをつかむ。  3 文の数の違いをくらべ、違いについて考える。 ・少ないと、すぐに読める。 ・少ないと、かんたん。 ・多いと、くわしいかんじがする。 ・多いと、よくわかる。  4 比べてわかったことを伝え合う。 ・ふるしき売場のカードは、お客さんが一目見てわかるように、すぐに読めるほうがいいから。 ・本の文章に、たくさんのことが書いてあると、ふるしきのことがよくわかるから。	○二つの文章を拡大したものを黒板に掲示し、全員で数えて考えさせる。 ○文の数を数えて表に書かせ、違い(効果)を考えさせる。  <b>◎文の数が少ないとどんなよさがありますか。</b>  <b>◎文の数が多いと、どんなよさがありますか。</b>  <b>◎どうして、このような違いが必要なのでしょう。隣同士で伝え合ひましょう。</b>  <b>◎隣同士で伝え合ったことを先生にも、教えてください。</b>
○何を話したらいいかわからない児童には、 <b>☞◎三つの動物の中でいちばん好きな動物を選びましょう。どうして、その動物を選んだのか話しましょう。</b> と問いかける。			

<p>4 感想を思い出しながら、全文を音読して、単元の学習をまとめる。</p>	<p>←</p> <p>→</p> <p>表現できる</p>	<p>5 本時の学習でわかったことを、短くまとめてノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カードの文章は、文の数が少ないので、かんたんにすぐ読める。</li> <li>・本の文章は、文の数が多いため、くわしく、多くのことを知ることができる。</li> </ul>	<p>◎今日の学習でわかったことを、ノートにわかりやすく書いてまとめましょう。</p> <p>○「カードの文章は」、「本の文章は」という書き出しを示し、その後につづけて書くようにする。</p>
---	--------------------------------	---	--

(4) 本時の評価

	学習活動における 具体の評価規準	努力が必要と判断する 児童への手立て	十分満足できると 判断する児童の姿（手立て）
1年	文章を読んで分かったことやもっと知りたくなったことなど、感想を交流することができる。（ワークシート・観察）	「気になる動物」「好きな動物」はどれかを問いかけ、その理由を語らせる。	本文から読み取ったことに加えて、自分の経験や知識を織り交ぜて感想を述べることができる。
2年	文の数のちがいを見つけ、ちがいの意味や効果を考えることができる。（ワークシート・観察）	句点ごとに文の数を確認することにより、文の数に着目して二つの文章のちがいや効果に気づかせる。	学習を通してわかったことを自分の中で再構成し、端的にまとめることができる。

どう やって みを まもるのかな⑥ ーねん )

めあて

どうやって みを まもるのかな」を よんで おもったことを つたえあおう。

だいーもん

三つの どうぶつのなかで いちばん すきな どうぶつを えら びましょう。

こたえ

わたしが いちばん すきな どうぶつは、

です。

だい二もん

なぜ、その どうぶつが いちばん すきなのか りゆうを かき ましょう。

なぜなら、

とくに すきなと「しろは、

【 りょうげんできる 】

すきな どうぶつについて (◎はなすことができた ○よんでつたえた)

四 二つの せつめいを くらべよう

ふるしきは どんなぬの⑥ 二年 名前 ( )

めあて

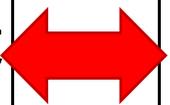
① 二つの ぶんしょうの ちがうところを みつけよう。  
② 文の かずを くらべてみよう。

だいもん ぶんしょうと、本に あった カードに 書かれて いた 文の かずを  
かぞえて みましよう。

みとおし

くてん ( ) の かずを かぞえると 文の かずが わかるね。

カードに 書かれていた 文しょうは、  
ぜんぶで、 ( ) 文 あった。



ちがいが ありますね。

本に のっていた 文しょうは、  
ぜんぶで、 ( ) 文 あった。

ひょうげんできる】(まとめ)カードと本の 文の ながさの よさを まとめ  
ましよう。

◎カードの文しょうは、 ( ) ながい・みじかい ( ) が、

よさがあります。

◎本の文しょうは、 ( ) ながい・みじかい ( ) が、

よさがあります。

7 本時の学習活動 ( 1 / 3 )

(1) 本時の目標

○言葉遊びの詩を読んで、拗音の発音と表記について知ることができる。

(2) 本時で検証すること

○拗音の部分に印をつけて判別させ、動作化を交えて音の違いを捉えさせることにより、拗音の発音や表記を知って正しく読むことができるか。

(3) 本時の展開

…間接

7 本時の学習活動 ( 7 / 12 )

(1) 本時の目標

○一文の長さの違いを見つけ、違いの意味や効果を考えることができる。

(2) 本時で検証すること

○文字数を確認しながら読ませたり、簡条書きとまとまった文を並べて比較させたりすることで、一文の長さの違いの意味や効果を考えることができるか。

…直接

第1学年		第2学年	
指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価
<p>○ガイドシートを準備しておく。</p> <p>○単元名を示し、拗音の読み方・書き方を知るとい学習課題を伝える。</p> <p><b>○「ねじれる音」という言い方を使う。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」(ねじれる音)のつく言葉を読んでみよう。</p> </div> <p>○拗音の発音になれるように、さまざまな読み方で詩を音読させる。</p> <p>○正しく読めるようになってきたら、音声教材CDも活用して、繰り返し音読させる。</p> <p>○次の手順で、音節と文字との対応を理解させる。</p> <p>①「いしゃ」の挿絵を提示し、発音させる。あえて「いしゃ」と表記し、児童の気づきを促す。</p> <p>②「し」と「ゃ」が合わさって「しゃ」となると伝える。二つの音が一つとなるので、記号は「●●」が重なって「◎」となる。動作は、たたいた両手を合わせて握るといルールを示す。</p> <p>③「いしゃ」と「いしゃ」を動作化を交えて声に出して読む。</p> <p>○本時の学習で学んだ動作化を交えて音読する</p>	<p>1 学習の見通しを立て、本時のめあてを確認かめる。</p> <p>2 拗音に注意して、教科書P64の言葉遊びの詩を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉音読</li> <li>・一列ずつ交代で音読</li> <li>・一人ずつ音読など</li> </ul> <p>3 教科書P64の「いしや」と「いしゃ」を比べ、音節と文字の対応を理解し、発音と表記のちがいをとらえる。</p> <p>4 学習を振り返り、拗音の読み方・書き方について確認する。</p>	<p>1 前時に学習してわかったことを伝え合い、教科書P80の学習の手引きを音読し、本時の学習課題を確認する。</p> <p>2 めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 一つの文の長さをくらべよう。</p> </div> <p>3 二つの文章を音読し、一文の長さのちがいを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カードの文は短い。</li> <li>・一つの文は、○文字です。</li> </ul> <p>4 一文の長さの違いを比べ、違いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本にのっていた文章には、「ふろしきには」という言葉が入っているから長くなる。</li> <li>・「また」「さらに」という言葉も入っているから長くなる。</li> </ul>	<p>○ガイドシートを準備しておく。</p> <p>○本時は、「一つの文の長さ」と「言葉の使い方」のちがいについて比べることを確認する。</p> <p><b>◎一つの文の長さや言葉の使い方のちがいを確かめながら、二つの文章を音読しましょう。</b></p> <p><b>◎同じことが書いてある二つの文をくらべると、長さはどのようにちがいますか。</b></p> <p>○句点ごとに文字の数を確認しながら読むようにする。</p> <p>○一文の文字の数を数えて表に書かせたうえで、どのようなことが違うのかを考えさせる。</p> <p>○それぞれの文章が、どのような場面で用いられているかを考えたうえで、一文の文字の数や、書かれている言葉が違うことの意味や効果をとらえさせる。</p> <p><b>◎どうして、本にのっていた文章は、長い文になるのでしょうか。</b></p>

<p>作化も交えて、音読する ように伝える。</p>	<p>音に気を付けて言葉遊 びの詩を音読する。</p>	<p>→</p>	<p>きる</p> <p>5一文の長さをくらべ てわかったことをまと める。 ・カードの文章は、一 文の文字の数が少な く、かんたんにすぐ読 める。 ・本の文章はは、主語 や「また」「さらに」 という言葉が入ってい て、くわしく（順序よ く）わかる。</p>	<p>◎今日の学習でわかった ことを、ノートにわかりやす く書いてまとめましょう。 ○「カードの文章は」、「本 の文章は」という書き出し を示し、その後につづけて 書くようにする。</p>
--------------------------------	---------------------------------	----------	---	--

(4) 本時の評価

	学習活動における 具体の評価規準	努力が必要と判断する 児童への手立て	十分満足できると 判断する児童の姿（手立て）
1年	言葉遊びの詩を読んで、拗音の発音と表 記について知ることができる。（ワーク シート・観察）	拗音の部分に印をつけて判別させ、動作 化を交えて音の違いを捉えさせる。	拗音の入った文章を的確に発音する ことができる。
2年	ヤドカリについてのイソギンチャクの関係 を読み取り、⑫段落の要点をとらえるこ とができる。（ワークシート・観察）	文字数を確認しながら読ませたり、箇条 書きとまとめた文を並べて比較させたり する。	学習を通してわかったことを自分の 中で再構成し、端的にまとめるこ とができる。



#### 四 二つの せつめいを くらべよう

ふるしきは どんなぬの⑥ 二年 名前 ( )

めあて

② 二つの ぶんしょうの ちがうところを みつけよう。  
① 一文の 長さを くらべてみよう。

だい一もん

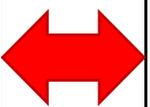
同じことが 書いてある 二つの文の 長さを くらべてみましょう。一文の 文字の数を かぞえて くらべましょう。

だい二もん

二つの 文しようは **だれが** **つかうのか**を かんがえましょう。

カードに 書かれていた 文しようは、

( ) が よんで つかいます。



**ちがいが** ありますね。

本に のっていた 文しようは、

( ) が よんで つかいます。

だい三もん

なぜ、本に のっていた 文は 長くなるのか 話し合みましょう。

【ひょうげんできる】(まとめ)カードと本の **一文の** **ながさの** **よさを** まとめましょう。

◎カードの文しようは、一文の文字の数が ( 多く・少なく )、

**よさ**があります。

◎本の文しようは、一文の文字の数が ( 多く・少なく )、

**よさ**があります。

7 本時の学習活動 (2 / 3)

(1) 本時の目標  
○拗音の表記を理解し、拗音・拗長音を含む語を読んだり書いたりすることができる。

(2) 本時で検証すること  
○拗長音、長音、拗音を含む語を音読しながら動作化することにより、リズムを捉えて語の表記について理解し、正しく読んだり書いたりすることができるか。

(3) 本時の展開

…間接

7 本時の学習活動 (8 / 12)

(1) 本時の目標  
○二つの文章の違いと、それぞれのよさについて考えることができる。

(2) 本時で検証すること  
○文章が使われる場面や用途を意図的に入れ替えて考えさせることにより、文章の目的と構成や表現の関りについて考えることができるか。

…直接

第1学年		第2学年	
指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価
○ガイドシートを準備しておく。	1 教科書P64の言葉遊びの詩を音読し、本時のめあてを確認する。	○ガイドシートを準備しておく。 ○書かれている内容の違いを読み比べることを確認してから音読させる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて 小さい「や」「ゆ」「よ」の書き方を知ろう。ねじれる音のつく言葉を読んだり書いたりしよう。</div> <p>○「や」「ゆ」「よ」を書く時の位置や大きさを確認して、練習をさせる。</p>	2 拗音の書き方を確かめ、マス目に書く練習を繰り返し行う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて 二つの文章には、どうしてちがいがあのかを考えよう。</div>	
		○カードの項目ごとに、本の文章の中で対応する、それぞれの段落を読み、本の文章の中にしか書かれていないことを読み取らせる。 ◎カードに書かれていることと、同じことが書かれているところに線を引きましょう。	
○「びょういん」と「びょういん」を発音し、二つの表記を見せて、どちらが当てはまるか問いかける。 ○それぞれの語の記号を示してから動作化する。「びょう」は拗音と長音が合わさったものなので、記号は◎となり、動作は、たたいて握った両手をそのま	3 拗長音を含む語と、長音や拗音を含む語とを比べて、発音や意味が異なることを知る。  ・「びょういん」と「びょういん」、「にんぎょ」と「にんぎょう」をくらべて、声に出して読みながら動作化する。	3 本の文章にしか書かれていないことを確かめる。  ・本にのっていた文章には、カードよりもくわしく、何が良いのか書かれている。	
		4 本の文章にしか書かれていないことは、どのようなことなのかを考え、ノート(ワークシート)に考えたことを書く。	○線を引いていない部分には、どのようなことが書かれているのかを考えさせる。

<p>まず動作になることを伝える。</p>	<p>4 拗長音を含む言葉を読んだり書いたりする。</p>	<p>表現できる</p>	<p>5 考えたことをペアやグループで交流する。</p>	<p>◎本の文章にしか書かれていないことは、どのようなことなのか、考えたことを伝え合しましょう。</p>
-----------------------	-------------------------------	--------------	------------------------------	--

(4) 本時の評価

	学習活動における 具体的評価規準	努力が必要と判断する 児童への手立て	十分満足できると 判断する児童の姿（手立て）
1年	拗音の表記を理解し、拗音・拗長音を含む語を読んだり書いたりすることができる。（ワークシート・観察）	拗長音、長音、拗音を含む語を音読しながら動作化する。	拗長音、拗音、長音それぞれの音節と文字との対応を的確に捉え、正しく読んだり書いたりすることができる。
2年	二つの文章の違いと、それぞれのよさについて考えることができる。（ワークシート・観察）	文章が使われる場面や用途を意図的に入れ替えて考えさせる。	文章が使われる場面を想定して、その文章を必要とする読み手に応じて、構成や表現に違いがあることに気づき、自分の言葉で説明することができる。



四 **二つの** **せつめい**を **くらべ**よう

ふるしきは **どんなぬの**⑥ 二年 名前)

(

めあて

二つの **ぶん**しようにには どうして **ちが**いが  
あるのかを **かんが**えよう。

だい一もん

本にのっていた **文**しようにで、カードに書かれていることと **同じ**ことが  
書いてあるところに **せん**を **引きま**しよう。

だい二もん

本の **文**しようににしか **かか**れていないことは **どんな**ことか **まと**めま  
しよう。

本の **文**しようにに**しか** **かか**れていないことは、

【**ひ**ょうげん**で**きる】

本の **文**しようにに**しか** **かか**れていないことを **つた**えあいましよう。

◎ワークシートをつかって **は**なせた。  
○ワークシートを **よ**んだ。

7 本時の学習活動 ( 3 / 3 )

- (1) 本時の目標  
○拗促音の発音と表記を理解し、拗音、拗長音、拗促音を含む語を読んだり書いたりすることができる。
- (2) 本時で検証すること  
○促音、拗促音を含む語を音読しながら動作化することにより、リズムを捉えて語の表記について理解し、正しく読んだり書いたりすることができるか。

(3) 本時の展開

…間接

7 本時の学習活動 ( 9 / 12 )

- (1) 本時の目標  
○二つの文章の違いと、それぞれのよさについて考えることができる。
- (2) 本時で検証すること  
○文章が使われる場面や用途を意図的に入れ替えて考えさせることにより、文章の目的と構成や表現の関りについて考えることができるか。

…直接

第1学年		第2学年	
指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価
○ガイドシートを準備しておく。	1 本時のめあてを確認する。	1 前時に書いた、本の文章にしか書かれていないことは、どのようなことなのか考えたことを発表する。	○ガイドシートを準備しておく。 ○本にのっていた文章には、より具体的な活用法や利点が書かれていることを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>めあて いろいろなねじれる音の言葉を読んだり書いたりしよう。</b> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>めあて 二つの文章には、どうしてちがいがあのかを考えよう。</b> </div>	
○教科書P65下段「しよっき」とP64「ひゃっぴき」を例に、拗音に促音が続いた場合の発音と表記について理解させる。 ○動作化を用いて、拗音と促音が入っていることを確認する。 ○表記の際には、小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」「よ」「っ」を書く位置に注意させる。	2 拗促音の発音を表記を知り、正しく書く。	2 めあてをつかむ。	
○拗音表を音読し、拗音の規則性に気づかせる。 ①行ごとに読む。 ②段ごとに読む。 ③音を伸ばして読む。 これらの音読を通して、小さい「ゃ、ゅ、ょ」はどんな文字につくのか気づかせる。	3 教科書P127の拗音表を音読し、拗音のきまりを整理する。	3 二つの文章には、なぜ違いがあるのかを考えさせる。  ・カードの文章は、買い物に来た人が読む。 ・本に書かれた文章は、ふるしきのことを調べる人が読む。 ・すぐにわかるのは、カード。 ・くわしくわかるのは、本。	◎二つの文章には、どうして違いがあるのだと思いますか。  ○二つの文章が使われる場面のちがいを捉えさせるために、以下の着眼点をもたせる。 ①誰が、その文章を使うのか。 ②すぐにわかるのは、どちらか。 ③くわしくわかるのは、どちらか。
	4 教科書P127の拗音表を音読し、拗音のきまりを整理する。	4 カードに書かれている文章と本に書かれている文章の使われている場面を逆転させて考える。	◎もし、ふるしき売り場のカードに、本にのっていた文章が書かれていたら、お客さんはどう思うでしょうか。  ◎また、ふるしきのことを調べたいと思った人が、本を開いたときに、カードに書かれていた文章がのっていたら、どう思

<p>○拗音を含む言葉を集めて書いたり、拗音を含む語をクイズ形式で出題して書いて答えたりする。</p> <p>○児童が発表した言葉は、「や」「ゆ」「よ」ごとに分けて板書する。</p> <p>○教師が伝えた言葉を聴写させる。</p> <p>○絵を見せて、その言葉を書かせる。</p> <p>○拗音の語の小さい「や、ゆ、よ」の部分をかくして、当てさせる。</p> <p>○正しく書けたか、動作化を交えて確認させる。</p>	<p>4 拗音、拗長音、拗促音の言葉を集めたり、拗音に関するクイズに答えたりして、読んだり書いたりする。</p>	<p>←</p> <p>つねる</p> <p>→</p> <p>表現できる</p>	<p>5 二つの文章を比べて、分かったことを発表し、学習したことをふりかえりながら、全文を音読する。</p>	<p>うでしょうか。</p> <p>○二つの文章が使われている場面を、意図的に逆転させて考えさせることにより、場面や用途によって用いられる文章に違いがあり、それぞれの良さがあることを押さえる。</p> <p>○<b>&lt;まとめ&gt;文章は、使う人の場面に合わせて、かんたんに表したり、くわしく表したりする。:板書</b></p> <p>○それぞれの文章の目的やよさを意識して読むように伝える。</p>
---	--	---	--	---

(4) 本時の評価

	学習活動における 具体的評価規準	努力が必要と判断する 児童への手立て	十分満足できると 判断する児童の姿（手立て）
1年	拗促音の発音と表記を理解し、拗音、拗長音、拗促音を含む語を読んだり書いたりすることができる。（ワークシート・観察）	促音、拗促音を含む語を音読しながら動作化する。	拗促音、促音それぞれの音節と文字との対応を的確に捉え、正しく読んだり書いたりすることができる。
2年	二つの文章の違いと、それぞれのよさについて考えることができる。（ワークシート・観察）	文章が使われる場面や用途を意図的に入れ替えて考えさせる。	文章が使われる場面を想定して、その文章を必要とする読み手に応じて、構成や表現に違いがあることに気づき、自分の言葉で説明することができる。



四 二つのせつめいをくらべよう

ふるしきは どんなぬの⑨ 二年 名前 (

めあて

二つの ぶんしょうには どうして ちがいが あるのかを かんがえよう。

だい一もんだれが、その文ししょうを つかいますか？

カードの文ししょうは ( ) が つかって、  
本の文ししょうは ( ) が つかう。

だい二もん ふろききのが、すぐに わかるのは どちらですか

○すぐに わかるのは ( カード ・ 本 )

だい三もん ふろききのが、くわしく わかるのは どちらですか

○くわしく わかるのは ( カード ・ 本 )

だい四もん もし、ふろしき売りのカードに、本にのっていた文ししょうが 書かれていたら かいものに きた人は どう思うでしょうか。 書かれ

だい四もん た もし、ふろしきのことを しらべるために 本をかりたら、カードにあっか。 文ししょうが 書かれていたら しらべにきた人は どう思うでしょうか。

【まとめ】

文ししょうは、つかう人の ばめんに あわせて、

( ) に あらわしたり、

( ) あらわしたりする。

7 本時の学習活動 (1 / 3)

(1) 本時の目標

○言葉遊びの詩を読んで、拗音の発音と表記について知ることができる。

(2) 本時で検証すること

○拗音の部分に印をつけて判別させ、動作化を交えて音の違いを捉えさせることにより、拗音の発音や表記を知って正しく読むことができるか。

(3) 本時の展開

7 本時の学習活動 (7 / 12)

(1) 本時の目標

○一文の長さの違いを見つけ、違いの意味や効果を考えることができる。

(2) 本時で検証すること

○文字数を確認しながら読ませたり、箇条書きとまとまった文を並べて比較させたりすることで、一文の長さの違いの意味や効果を考えることができるか。

…間接

…直接

第1学年		第2学年	
指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	
<p>○ガイドシートを準備しておく。</p> <p>○単元名を示し、拗音の読み方・書き方を知るという学習課題を伝える。</p> <p><b>○「ねじれる音」という言い方を使う。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 小さい「や」「ゆ」「よ」(ねじれる音)のつく言葉を読んでみよう。</p> </div> <p>○拗音の発音になれるように、さまざまな読み方で詩を音読させる。</p> <p>○正しく読めるようになってきたら、音声教材CDも活用して、繰り返し音読させる。</p> <p>○次の手順で、音節と文字との対応を理解させる。</p> <p>①「いしゃ」の挿絵を提示し、発音させる。あえて「いしゃ」と表記し、児童の気づきを促す。</p> <p>②「し」と「や」が合わさって「しゃ」となると伝える。二つの音が一つとなるので、記号は「●●」が重なる「◎」となる。動作は、たたいた両手を合わせて握るというルールを示す。</p> <p>③「いしゃ」と「いしゃ」を動作化を交えて声に出して読む。</p> <p>○本時の学習で学んだ動作化も交えて、音読するように伝える。</p>	<p>1 学習の見通しを立て、本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 拗音に注意して、教科書P64の言葉遊びの詩を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉音読</li> <li>・一列ずつ交代で音読</li> <li>・一人ずつ音読など</li> </ul> <p>3 教科書P64の「いしゃ」と「いしゃ」を比べ、音節と文字の対応を理解し、発音と表記のちがいをとらえる。</p> <p>4 学習を振り返り、拗音に気を付けて言葉遊びの詩を音読する。</p>	<p>1 前時に学習してわかったことを伝え合い、教科書P80の学習の手引きを音読し、本時の学習課題を確認する。</p> <p>2 めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 一つの文の長さをくらべよう。</p> </div> <p>3 二つの文章を音読し、一文の長さのちがいを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カードの文は短い。</li> <li>・一つの文は、○文字です。</li> </ul> <p>4 一文の長さの違いを比べ、違いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本にのっていた文章には、「ふるしきには」という言葉が入っているから長くなる。</li> <li>・「また」「さらに」という言葉も入っているから長くなる。</li> </ul>	<p>○ガイドシートを準備しておく。</p> <p>○本時は、「一つの文の長さ」と「言葉の使い方」のちがいを確認して比べることを確認する。</p> <p><b>◎一つの文の長さや言葉の使い方のちがいを確かめながら、二つの文章を音読しましょう。</b></p> <p><b>◎同じことが書いてある二つの文をくらべると、長さはどのようにちがいますか。</b></p> <p>○句点ごとに文字の数を確認しながら読むようにする。</p> <p>○一文の文字の数を数えて表に書かせたうえで、どのようなことが違うのかを考えさせる。</p> <p>○それぞれの文章が、どのような場面で用いられているかを考えたうえで、一文の文字の数や、書かれている言葉が違うことの意味や効果をとらえさせる。</p> <p><b>◎どうして、本にのっていた文章は、長い文になるのでしょうか。</b></p>

		→ ■	<p>5一文の長さをくらべてわかったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カードの文章は、一文の文字の数が少なく、かんたんにすぐ読める。</li> <li>・本の文章はは、主語や「また」「さらに」という言葉が入っていて、くわしく（順序よく）わかる。</li> </ul>	<p>◎今日の学習でわかったことを、ノートにわかりやすく書いてまとめましょう。</p> <p>○「カードの文章は」、「本の文章は」という書き出しを示し、その後につづけて書くようにする。</p>
--	--	-----	---	--

(4) 本時の評価

	学習活動における 具体の評価規準	努力が必要と判断する 児童への手立て	十分満足できると 判断する児童の姿（手立て）
1年	言葉遊びの詩を読んで、拗音の発音と表記について知ることができる。（ワークシート・観察）	拗音の部分に印をつけて判別させ、動作化を交えて音の違いを捉えさせる。	拗音の入った文章を的確に発音することができる。
2年	ヤドカリについてのイソギンチャクの関係を読み取り、㊸段落の要点をとらえることができる。（ワークシート・観察）	文字数を確認しながら読ませたり、簡条書きとまとめた文を並べて比較させたりする。	学習を通してわかったことを自分の中で再構成し、端的にまとめることができる。

めあて

いえのひとに つたえたいことを かんがえよう

もんだい

だれに つたえますか。

□おうちのひとでは、（ ）に つたえたい。

□しんせきのひとでは、（ ）に つたえたい。

もんだい

どんなことを つたえますか。

○がっこうでしたこと

□じゅぎょうちゅうの「と

□やすみじかんのこと

□ぎょうじの「と

◇かんげいえんそく ◇こくないすもうたいかい

◇こくりゅう ◇たい「◇プールびらき

□うれしかったこと

□たのしかったこと

□おどろいたこと

四 二つのせつめいをくらべよう

ふるしきは どんなぬの⑩ 二年 名前)

めあて

( まほうのかばんランドセル」の文ししょうから、  
( )にかくことを かんがえよう。

だい一もん ランドセルの よいところは なんですか？

だい二もん カードの文ししょうのとくちようを おもいだしましょう。

○文の かがが ( 多い ・ 少ない )

○一つの文が ( 長い ・ みじかい )

○ひと目でわかるように ( かんたんに ・ くわしく )  
かかれています。

だい四もん

まほうのかばんランドセル」を読んで、ランドセルのよさをししょうかい  
するカードにかくぶぶんに サイドラインを引きましょう。

みとおし  
みつけましょう。 ランドセルについて、たいせつなことが かかれています

まとめ【ひょうげんできる】

サイドラインを引いた文を、ともだちに つたえましょう。

なぜ、その文が たいせつなのか りゆうも いえるかな。

7 本時の学習活動 ( 2 / 3 )

(1) 本時の目標

○家の人に知らせたいことを、様子が伝わるように書くことができる。

(2) 本時で検証すること

○学習の見通しを持たせるために、「1かこう」「2みなおそう」「3よみあおう」の流れを板書することにより、主体的に学ぶことができるか。

(3) 本時の展開

…間接

7 本時の学習活動 ( 11 / 12 )

(1) 本時の目標

○「まほうのかばんランドセル」の文章からカードを作ることができる。

(2) 本時で検証すること

○サイドラインを引いた文について話し合わせることにより、カードに書く内容を文章中から取り出すことができるか。

…直接

第1学年		第2学年	
指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	学 習 活 動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価
○ガイドシートを準備しておく。	1 本時のめあてを確かめる。	○ガイドシートを準備しておく。 ○前時の学習を振り返ることにより、ランドセルのカードを作る意識を高める。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて いえの ひとつに つたえたいことを かこう。</div> <p>○教科書P67・68の例文をもとに、文章を書くときに気を付けることを確認する。 ①家の人につたえたいように書くこと。 ②一字下げて書き始めること。 ③主語・述語を正しく。 ④句読点の位置。 ⑤「～です。」「～ます。」の敬体表現で書くこと。</p> <p>○「1かこう」「2みなおそう」「3よみあおう」の学習の流れを板書しておく。 ※教科書の例文に、書く時の注意点を書き加えたものを示してもよい。</p> <p>◎いつ、だれが、なにをしたのかをよく思い出して(思い浮かべて)書きましょう。 ◎書き終わったら、音読して見直しをしましょう。</p> <p>※ひらがなの定着が不十分な児童には、平仮名表を机の上に置く。</p>		2 文章を書くときに気を付けることを知る。	1 前時に確認した「カードの文章のとくちょう」を音読する。
	3 文章を書く。	3 教科書81ページの「まほうのかばんランドセル」を音読する。	2 めあてをつかむ。
	4 書いた文章を読み返して、正しく書けているか確かめる。 (書き終わったら、必ず音読して見直しをするように習慣づける。)	4 カードを作る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて「まほうのかばんランドセル」の文しょうをもとに、カードを作ろう。</div> <p>○本文を読ませる前に、前回の学習でサイドラインを引いた部分が大切な文になっているか確かめながら読むことを伝える。</p> <p>◎サイドラインを引いた文を使って、カードを作りましょう。 ランドセルを買いに来た人に、ランドセルのよさを伝えるカードにします。 ○カードに書く内容を選択するのに戸惑っている児童がいた場合は、ペアで話し合わせながらカードを書かせる。 ※カードの例を示し、出来上がったカードのイメージを持たせてもよい。</p> <p>○学級の中で、音読させ、その後、書いたカードを交換させて読ませて、お互いのカードのよいところを伝え合わせる。</p>
		5 書いたカードを読み合い、お互いのカードのよさを伝え合う。	

(4) 本時の評価

	学習活動における 具体の評価規準	努力が必要と判断する 児童への手立て	十分満足できると 判断する児童の姿（手立て）
1年	家の人に知らせたいことを、様子が伝わるように書くことができる。（ワークシート・観察）	学習の見通しを持たせるために、「1かこう」「2みなおそう」「3よみあおう」の流れを板書する。	学習の流れを自分で確認して、「書く」「見直す」「読み合う」活動を進めることができる。
2年	「まほうのかばんランドセル」の文章からカードを作ることができる。（ワークシート・観察）	サイドラインを引いた文について話し合わせるにより、カードに書く内容を確かめさせる。	文中からランドセルのよさを的確に選択し、教科書の文を短くしたり書き換えたりして、カードを作ることができる。





7 本時の学習活動 ( 3 / 3 )

(1) 本時の目標

○書いた文章を友達と交換して読み合い、感想を伝え合うことができる。

(2) 本時で検証すること

○よい文章の着眼点を示すことにより、友達の文章のよさを見つけることができるか。

(3) 本時の展開

…間接

7 本時の学習活動 ( 12 / 12 )

(1) 本時の目標

○単元の学習を振り返ることができる。

(2) 本時で検証すること

○これまでに用いたノートやワークシートを見直させることにより、二つの説明のちがいでついて考えたかを振り返ることができるか。

…直接

第1学年		第2学年	
指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価	指導上の留意点 ◎主発問 ☆評価
<p>○ガイドシートを準備しておく。</p> <p><b>めあて かいた ぶんしょうを よみあおう。</b></p> <p>○よさとして以下のことを確認する。 ①家の人につたわるように書くこと。 ②一字下げて書き始めること。 ③主語・述語を正しく。 ④句読点の位置。 ⑤「～です。」「～ます。」の敬体表現で書くこと。 ⑥文字を丁寧に書くこと。</p> <p>◎○○さんの文章には、よいところがたくさんあります。どんな、よさがありますか。 ※事前に、教師がよい文章の例を選んでおく。</p> <p>◎ペアの友達と文章を交換して、感想やよいところを伝え合ひましょう。</p>	<p>1 前時に書いた文章を音読して、正しく書けているか確かめる。</p> <p>2 よい文章の着眼点を知る。</p> <p>3 友達の文章を読んで、気づいたことを発表する。</p> <p>4 二人組(三人組)で文章を交換して読み合い、感想を伝え合う。</p>	<p>1 前時に作成した「ランドセルのカードの工夫したところを考える。</p> <p>2 めあてをつかむ。</p> <p><b>めあて 二つの文章の説明の仕方のちがいを考えることができたか、ふりかえろう。</b></p> <p>3 カードの文章と本の文章の違いを想起する。</p> <p>4 自分の書いたランドセルを紹介する文章が、目的に沿ったものか確かめる。</p> <p>5 自分がカードを作る時に工夫した点を伝え合い、お互いのカードのよさを認め合う。</p>	<p>○ガイドシートを準備しておく。</p> <p>○ワークシートかノートに記入させる。</p> <p>○文章を使う場面や用途(何のために使うか)により、文章構成や表現の違いが生じることを押さえる。</p> <p>◎ランドセルを買いに来た人に、ランドセルのよさを伝えるカードになっているでしょうか。</p> <p>○学級の中で、友達のカードを交換させて読ませて、友達のカードのよいところを伝え合わせる。</p>
	つかむ	表現できる	
	■	つかむ	
	わかる	■	
	→	わかる	
	できる	→	
	■	できる	
	→	■	
	表現できる	表現できる	

(4) 本時の評価

	学習活動における 具体の評価規準	努力が必要と判断する 児童への手立て	十分満足できると 判断する児童の姿（手立て）
1年	書いた文章を友達と交換して読み合い、感想を伝え合うことができる。（ワークシート・観察）	よい文章の着眼点を示すことにより、友達の文章のよさを見つけやすくする。	友だちの文章表現を引用して、文章のよさを認めることができる。
2年	単元の学習を振り返ることができる。（ワークシート・観察）	これまでに用いたノートやワークシートを見直させる。	文中からランドセルのよさを的確に判断し、カードの工夫点を見つけることができる。

めあて

かいた ぶんしょうを よみあおう。

一 まえの じかに かいだ ぶんしょうを おんどくしましょう。

かくときの ちゅうい

□ かきはじめは ひとます あけます。

□ しゅごと じゅつごを ただしくかきます。

□ くとうてん を ただしく うちます。

□ 了です。 「了ます。」の かきかたで かきます。

二 ともだちの ぶんしょうを よんで よいところを はっぴょう  
しましょう。

よい ぶんしょうとは、

◎ げんこうようしを ただしく つかっている。

◎ 「しゅご」と 「じゅつご」が

◎ ただしくはいって いる。か が わかりやすい。

◎ じゆんじょよく いたの ねいかで よみやすい。

◎ もじが ていねいで よみやすい。

三 ペアで ぶんしょうを こうかんして よみあい かんそうを つたえましよ

( さんの ぶんしょうの よいところは、

うと ) ( だと おもいます。どこから そう おもったのかとい

) ( と かけてある ところ です。

四 かいだ ぶんしょうを いえのひとに よんでもらいましよ。

いえのひとからの かんそう



